

今号の もくじ

単孔式腹腔鏡手術についてP.1
日本経営 職員による病院評価3位P.2
認定看護師の紹介P.2

COPD教育入院検査 その4 CT検査P.3
インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンについてP.3
行事予定P.3



単孔式腹腔鏡手術について

消化器外科医長 大城 望史



かつては、お腹の手術といえば、お臍の横をぐるりと回って、上下に20cmも開けた傷(開腹手術)で行っていました。しかし、最近では手術手技の向上と新しい器具の開発により、小さな傷でいろいろな手術ができるようになりました。いわゆる腹腔鏡(ふくくうきょう)手術です。お腹を炭酸ガスで膨らませ、カメラ(腹腔鏡)でのぞきながら、まるで手を使っているかのように、鉗子を用いて臓器をどンドンはがしてブラブラにするのです。

これまで、当院でも胆石・胆嚢炎や大腸癌は、この腹腔鏡手術を行ってきました。このうち、比較的手術難度の低い、胆石、虫垂炎、右側大腸癌、胃壁外性腫瘍などは、傷を一つにまとめた「単孔式腹腔鏡手術」が可能になっています。傷が臍に隠れるため、外から見ても手術したことすらわかりません。患者さんが十分に満足できる手術であると考え、これまでの経験も踏まえて積極的に取り組んでいます。

(図1)この症例では、単孔式腹腔鏡で大腸癌と胃の壁外性悪性腫瘍を同時切除しています。臍にポートが入っています。モニターに胃を牽引している様子が写っています。

(図2)術後1か月の傷です。下腹部は以前の子宮の手術(開腹)が見えます。今回の手術の傷は、臍の中なのでよくわかりません。



(図1)

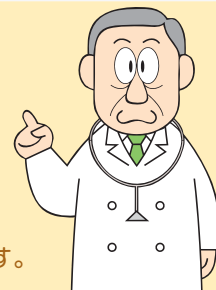


(図2)

患者さんの 権利と責任

1. 個人の尊厳は尊重され、最善で平等な医療を受ける権利を有します。
2. 治療に関する情報を知り、説明を受ける権利を有します。
3. 治療に関する方法を、自己の意思で決定する権利を有します。
4. 個人の情報(プライバシー)が、保護される権利を有します。
5. 医療関係者との信頼関係に基づき、医療への参加の責任を有します。

当院では、患者さんと医療者のパートナーシップを大切にしています。
患者さんと医療者がお互いに協調し、良好な関係を築いてゆきたいと考えています。





日本経営 職員による病院評価3位

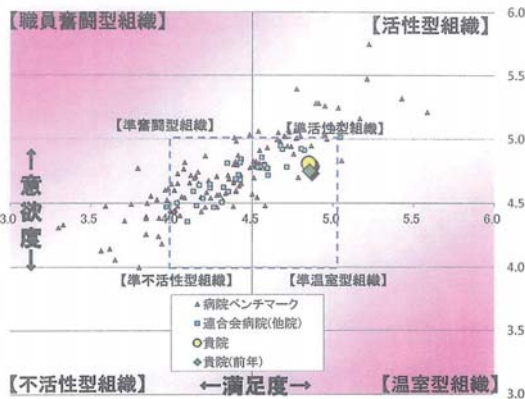
事務部長 宇山 正信



宇山事務部長 奥道院長

当院は株式会社日本経営による2014年度Navigator=組織の活性度を職員の意欲と満足で定義し、効果的な要因を把握することで組織活性度を高める統計分析、200床以上(急性期を除く)の部ランキングで、3位という高評価を頂きました。

「意欲・満足」の影響をアンケート方式で6つのカテゴリー別に【①組織の一体感②仕事のやりがい③誇りと帰属心④コミュニケーション⑤組織システム⑥上司信頼】統計分析した結果です。1位病院の活性度は10.12(意欲5.13満足4.99)当院の活性度は9.66(意欲4.81満足4.85)でした。職員の意欲や満足に影響を与えている要因を知ることにより、効果的な改善方法を検討し、総合的に意欲と満足を向上することが患者さんの満足に繋がるものと、今後も高い活性度が維持できるよう取組んでまいります。



アンケート設問59及び60の集計結果(回答7段階の平均値)より組織としての満足度、活性度は左記のように診断されました。組織分類として、前年も今年も【活性型組織】と判定されました。後述する分析内容より、現在の強みを維持し、弱みを強化していくことで、更なる組織の活性化にお取り組みください。

CHECK! NAVIGATORの読み方

- 【活性型組織】 意欲度、満足度ともに平均点が5点以上をマークしている組織です。組織の模範的な形であり、この状態を維持、継続していくことが求められる状態です。
- 【職員奮闘型組織】 職員は努力している(させられている)と感じているのですが、満足度は不十分である組織です。頑張りが長続きしない可能性があります。
- 【温室型組織】 満足度は高いものの、意欲が低い傾向にあります。能動的な働きが少なく、組織が緩んだ状態である可能性があります。
- 【不活性型組織】 職員は職場環境に満足を感じることができず、意欲的に働くこともないと感じています。いち早く有効な施策を実施する必要があります。



皮膚排泄ケア
認定看護師
西田 英幸

認定看護師の紹介



認定看護師とは、日本看護協会認定審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術を有することが認められた看護師のことをいいます。21分野の専門分野のうち、当院では、すでに緩和ケア、摂食嚥下障害の認定看護師がいますが、今回新たに皮膚排泄ケアと認知症看護の認定看護師が誕生しました。今月号では、皮膚排泄ケア認定看護師を紹介いたします。

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、褥瘡(床ずれ)などの創傷管理、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)や失禁などの排泄管理に対し、専門的にケアを提供する看護師のことをいいます。当院での活動として褥瘡に関しては予防のアドバイスや褥瘡ができてしまった方への苦痛の軽減と早期に治癒するよう実践・アドバイスを行っています。ストーマ造設患者さんに対しては術前術後のケアと早期社会復帰への援助を行い、入院前とできるだけ変わらない生活が送れるよう支援しています。今後の超高齢化社会に向け皮膚や排泄に関する問題を抱える方は増加すると予想されています。皮膚の障害は病気と同じように早期発見早期治療が大切です。どんな小さなことでも構いません。お気軽にご相談ください。



COPD教育入院検査 その4 CT検査

放射線科 石橋 太志



今回は慢性閉塞性肺疾患(COPD)教育入院に含まれるCT検査についてご紹介します。

COPDの検査にはいろいろありますが、CT検査は喫煙によって傷んだ肺の状態を直接画像化して評価できる検査です。

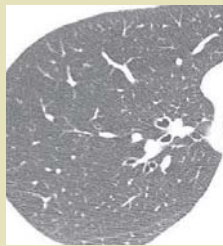
検査自体は一般のCT検査となんら変わりはありませんが、検査による放射線被曝を可能な限り少なくして撮影をおこなっています。さらに当院では64列マルチスライスCTを使用しており、撮影もわずか4秒の息止めで終わりますので苦痛な検査ではありません。また、COPDの合併症として危険性が高い肺がんの早期発見にも有効となります。

もし呼吸状態が悪く息苦しい場合や体調が悪い場合は呼吸状態が安定するまで休憩していただいてから撮影をおこないますので遠慮なく担当技師に申し出てください。

タバコの煙により肺胞が拡張・破壊され、細かい気管支も炎症のため狭くなり、徐々に進行し肺胞が破壊されてしまいます。(CT画像参照)

肺胞とは、酸素と二酸化炭素を交換する肺の組織です。

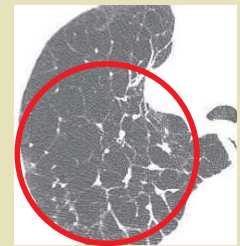
息を吸う時には、肺に空気が入っていきますが、COPDでは吐くときに肺から空気が上手く出ていかなくなり、その結果肺は大きく膨らみます。そうして、正常な肺の血管が細くなったり、呼吸筋である横隔膜を押し下げたりします。



正常



軽症



重症

インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンについて

冬に流行するインフルエンザ。感染力が強く、関節などの痛み、頭痛や倦怠感、咳、喉の痛みなど重い症状を引き起こします。特に慢性の呼吸器疾患(喘息、肺気腫など)や心臓病などを持っている方は予防接種を受けておくことをお勧めします。当院では予約の必要はありませんので、体調のいい時に主治医と相談の上お受けください。

肺炎球菌ワクチンに関しては、平成26年10月1日から定期接種となりました。平成27年度の対象者は、今年度中(平成28年4月1日まで)に65、70、75、80、85、90、95、100歳を迎える方でこれまでに肺炎球菌ワクチンの予防接種を受けたことのない方となっております。広島市より接種券と予診票が送付されますので、まずは当院へご相談ください。

※なお、当院に通院中の患者さんを対象にお受けいたします。

接種費用

インフルエンザワクチン: 1回につき3,890円(原則1回)

肺炎球菌ワクチン(対象者の方): 4,700円



行事予定

10月17日(土) 健康教室 開催 ※詳しくは4面に掲載

11月8日(日) 糖尿病ウォークラリー ※詳しくは外来受付で

12月12日(土) オープン糖尿病教室 開催

